

令和5年度 第1回一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録(要旨)

- ・日 時:令和5年8月24日(木) 午前10時30分~11時30分
- ・会 場:一宮市役所本庁舎14階大会議室
- ・出席者:委員15人 ※欠席委員3人
- ・傍聴者:0人

1 開会

新委員の紹介、総合政策部長あいさつ

2 議事

(1) 一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂方針(案)について

○事務局から資料1-1、2について説明

○委員からの意見と事務局回答

▼委員からの意見

- ・ デジタルとグリーンを結びつけていくことは大切
- ・ 今後は、2050年を見据えた、持続的・安定的に成長する市場の特定やまちづくりが重要である
- ・ その要素としては、以下の通りである
 1. デジタル&グリーン経済へのトランスフォーメーション
 2. 脱炭素ビジネスの進化とカーボンプライシング
 3. サーキュラーエコノミー(循環ビジネスモデル構築。ゴミを価値あるものに変化)
 4. トレーサビリティ進化ビジネス(需給マッチング)と、情報セキュリティの強化
 5. 気候変動レジリエンス
- ・ そして、持続性が高い社会に変化していく予測を持っている
 - ① デジタル活用&リアル配送の最適マッチング(COs削減)で地域の宝を循環させる
 - ② 主がデジタル業務で、従がリアルのハイブリッドな働き方。どこにいても働ける。自由な時間で価値提供と時間マッチング
 - ③ 安全・安心起点のユニバーサルデザインの製品が売れて、毎年機能追加など進化し、減価償却がなくなる製品・サービスも登場
- ・ 上記の項目の達成には、サプライチェーン・バリューチェーンの変化が必要。消費者が常にユーザーサポートにつながり、製品の追加機能・サービスを楽しむという図式が循環していく社会となる。そして、そのためには、サービスを受けたもしくは製品を購入したユーザーをデジタルで分析するほか、工場内の職人の技術をデジタル化していき、デジタル店舗とリアル店舗を融合していく
- ・ こういったように3R(リデュース、リユース、リサイクル)から、サーキュラーエコノミ

ー(循環経済)への変化が重要となっていく。また、グリーンイノベーションを起こすには、脱炭素ソリューションやトレーサビリティ活用、データの活用が中核になってきている。そして、ベースには気候変動に適用できる事業継続計画(BCP)と、サーバー情報セキュリティ対策の進化が重要となってくる

- ・ つまり、デジタルとグリーンを戦略の中でどう融合させていくことが重要となる
- ・ そして、その背景となっているのは ESG(環境・社会・ガバナンス)の要素
- ・ 最近のサプライチェーンでの優先順位としては、以下の通りである
- ・ 環境分野では、3 つのことがグリーンイノベーションとして進むことが大切
 - ① 脱炭素、再生エネルギーの活用
 - ② ゴミを価値に変化させる循環経済が重要。例えば、一宮市の「ガチャ万」時代は大量生産・消費の構図だったが、繊維産業でも循環型に変化している
 - ③ 海洋プラスチック問題を含めた、地球の生物多様性
- ・ 社会分野では、以下の要素が重要である
 - ① 人権
 - ② ディーセントワーク(働き甲斐がある人間らしい仕事)
 - ③ 安全・安心、健康経営
 - ④ 女性活躍・ダイバシティ対応
 - ⑤ 技能実習性など外国人労働者
- ・ ガバナンスとしては、以下の要素である
 - ① コンプライアンス・リスク管理
 - ② 事業継続力(サクセッションプラン含む)
 - ③ サプライヤーのモニタリング
 - ④ 責任ある原材料調達
- ・ まちづくりに重要な要素として ESG 投資があり、E(環境)と S(社会)と G(ガバナンス)を融合するためには、デジタルの活用が必要。そのためにはトレーサビリティ分析できる社会をつくっていくことが重要

▼委員からの意見

- ・ 一宮市では、既に官民データ活用計画と一宮市 DX 推進計画といったものが進行している
- ・ デジタルが改訂後の総合戦略の名称案に入っているが、デジタルを急激に推し進めるのではなく、以前の国のまち・ひと・しごと創生総合戦略でも位置付けられていたとおり、デジタルはあくまで手段としているため、一宮市の次期総合戦略の基本目標案でも全面的に押し出すのではなく、一つの要素としているという印象である
- ・ デジタルの項目は一つ用意されているが、他の項目でも当然、デジタルの要素は関係していくのであろうと考えている
- ・ 地方創生という総合戦略の本来の目的を達成しながら、委員の皆さんにはご協力をお願いしたい

▼委員からの意見

- ・ 改訂にあたって総合戦略の内容を大幅に変更するものなら、名称も現行の「まち・ひと・しごと」から「デジタル」を含んだものに変更することは理解できるが、大きく変更しないということならば、今回の改訂で名称を変更する背景、理由を伺いたい

▽事務局回答

- ・ デジタルは手段であり、地方創生が目的である。ただ、デジタルの要素を含めるという意味を込めるとともに、国の動向に沿ったものにしたいという考えのもと、名称の変更を現状の案としている

▼委員からの意見

- ・ 基本目標案は資料で示された通りだが、各目標にぶら下がる事業については、これから調整するということが

▽事務局回答

- ・ その通り。今後、各課と協議しながら総合戦略に盛り込む地方創生に関する事業を選定していく予定

▼委員からの意見

- ・ 例えば、総合戦略の名称を変更することによって、交付金を受けやすくなるなどのメリットはあるのか

▽事務局回答

- ・ 総合戦略の名称変更に関わらず、デジタル田園都市国家構想交付金の申請要件の一つとして地方版総合戦略の策定がある。ただし、国は地方版総合戦略の改訂を促しているものの、地方自治体の自主性を尊重しているため、必ずしも名称変更が必須ではない

▼委員からの意見

- ・ デジタルの文言を含んだ、次期総合戦略の事務局案のサブタイトルはあるのか

▽事務局回答

- ・ デジタルの文言を含んだサブタイトルの案の一つとして、「デジタルの力で 誰もが快適に便利に暮らせるまち 緑豊かな一宮～のどかさど便利さが織りなす豊かな環境を活かし、子どもたちがのびのびと学び育つまちづくり～」を考えている

▼委員からの意見

- ・ デジタルとグリーンで快適なまちづくりの推進(案)という目標はあるが、具体的にグリーン分野の事業例はあるのか

▽事務局回答

- ・ 現時点で、具体的な案は持ち合わせていないが、グリーン分野の事業を盛り込む想定

▼委員からの意見

- ・ 国の長期ビジョンについては、何か情報をつかんでいるのか。また、一宮市の人口ビジョンを変更する際は、現在の市の状況等を加味して齟齬が発生しないようにしてほしい
- ・ 市役所の職員と会話するとき市の総合戦略について認識していないことがある、役所内の認知度向上にも努めてほしい

▽事務局回答

- ・ 明確な情報は掴んでいないが、国の長期ビジョンが今後、社人研の推定に基づいて策定される予定なので、それに基づいて一宮市も人口ビジョンを定める予定

▼委員からの意見

- ・ 全庁的に ICT 化に取り組む契機として、改訂版の総合戦略の KPI の一つとして「行政手続きオンライン化、ICT 化」を提案する

▼委員からの意見

- ・ KPI としてデジタル庁が掲げている指標である Well-Being(地域幸福度)を、どこかに組み込んでほしい

(2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む事業の進捗状況等について

○事務局から資料2-1、2について説明

○議題2について委員から事前聴取した質問と事務局回答を紹介

▼事前聴取した意見

- ・ 子育て世代や若者をターゲットとした「一宮七夕まつり」のような魅力あるイベントや、施設を増やして欲しい
- ・ 理由:名古屋駅からも近く駅ビルも立派なので、魅力あるイベントや施設が増えると、市のイメージアップに繋がり、住みたいと思われるまちになる

▼事務局回答

- ・ 一宮七夕まつり以外にも、昨年度だとまちなかウォークブルにて、様々なイベントを実施(まちなかウォークブルのイベントは今年度も実施予定)。今年度は、TGC(東京

ガールズコレクション)を中心とした、BISHU FES.を開催予定

- ・ 引き続き、民間団体と協力して、より一層、駅や駅を中心とした若者や子育て世代をターゲットとしたイベントを開催しやすい環境作りに努める

▼委員からの意見

- ・ 資料 2-2 のタイトルについては、事業の実績であり進捗状況を示したものでないため、変更することが適切ではないか

(3) 閉会